

# インタープリテーションの場における音楽プログラムの開発

師田 恭兵 (帝京科学大学 環境教育・インタープリテーション研究室)

指導：古瀬浩史

キーワード：環境教育、音楽、プログラム開発

## 1. はじめに

現在、自然公園や都市公園では、環境教育的な内容を含んだ様々な子ども向けのインタープリテーションが行われている。例えば、キャンプを通して自然の大切さや、食への感謝を学ぶためのプログラムや、自然観察を通して自然の仕組みの理解、環境への配慮を意識させるためのプログラムなどが挙げられる。子どもを対象にしたインタープリテーションでは、遊びの要素や、様々な感覚（五感）を使った活動が有効とされており、その一つに「音楽」を取り入れた手法が考えられる。

音楽の持つ教育的な機能として、日高 (2017) は、「コミュニケーション能力の向上」、「社会的要素を学ぶ」、「心理的な解放」、「情緒の安定」、「自己の精神的コントロールへの影響」、「様々な感覚への刺激」、「運動機能への影響」を挙げている<sup>1)</sup>。これらのことから、音楽の持つ教育的な機能を活かして音楽を軸としたプログラムを作成・実施することにより、自然公園や都市公園におけるインタープリテーションにおいて、より効果的に教育的内容を伝達することができるのではないかと考えた。

本研究では、音楽を使ったインタープリテーションの事例を調べ、インタープリテーションの現場で活用できる音楽プログラムを新たに開発し、効果を考察することを目的とした。

## 2. 方法

### (1) 音楽プログラムに関する事例調査

#### キャンプソングの歌詞の調査

教育的なキャンプにおいて、キャンプファイヤーなどの際に歌われる「キャンプソング」の歌詞について調査した。東京 YMCA のサイトに掲載された資料<sup>2)</sup> および日本キャンプ協会監修のキャンプソング CD<sup>3)</sup> を調査対象として、歌詞の内容について調査した。

#### 環境教育やインタープリテーションの音楽プログラム調査

環境教育やインタープリテーションの分野で行われている既存の音楽プログラムにはどのようなものがあるのかインターネットで調査し、歌詞や楽曲の構成においてどのような手法が有効なのかを検討した。

### (2) 環境教育やインタープリテーションの現場調査

自然公園施設等が主催しているキャンププログラムやイベント

にスタッフとして参加し、施設スタッフへのインタビューや自身の体験を通じて、音楽プログラムがどのような場面で有効に活用できるかについて考察・検討した。

### (3) プログラムの開発

(2)の結果を踏まえ、インタープリテーションの場において汎用的に使用できる歌詞の楽曲を制作した。また、制作した楽曲を使用したプログラムの流れを検討した。

### (4) 試行及び評価

プログラムをキャンププログラム、都市公園のイベント、小学校において実施し、施設スタッフやプログラムの担当者からフィードバックを得て、本研究の評価材料とした。

## 3. 結果

### (1) 音楽プログラムに関する事例調査

#### キャンプソングの歌詞の調査

東京 YMCA のサイトに掲載された資料および日本キャンプ協会が監修したキャンプソング CD を参考にキャンプソング 91 曲の歌詞の調査を行った結果を図 1 に示す。レクリエーション目的や海外民謡の歌詞が全体の 9 割近くを占めており、教育的な内容を持つキャンプソングはわずか 13% しかなく、非常に少ないという事がわかった。

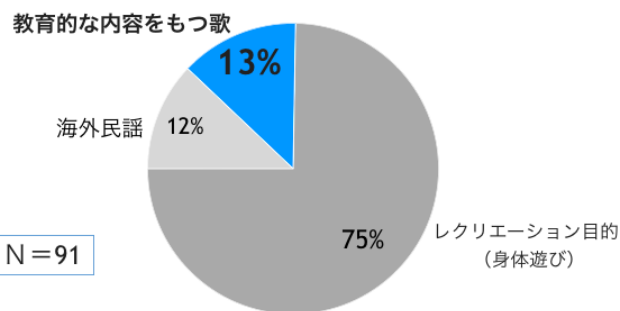


図-1. キャンプソングの歌詞の調査結果

#### 環境教育やインタープリテーションの音楽プログラム調査

既存の音楽プログラムにはどのような手法のプログラムがあるのか、また、その楽曲にはどのような特徴があるのかについて調査した。インターネットで調べたところ国内と海外で合わせて 4 つの事例が見つかった。使用している楽曲には様々な手法が取

り入れられており、多くの人々に支持されている。これらの事例調査から、特に有用と思われる要素を下記に整理した。

<音楽プログラムに有効と思われる要素>

- ・明確な学習内容を持った歌詞
- ・印象的なキーフレーズ
- ・コール&レスポンス
- ・振り付けを取り入れた曲

(2) 環境教育やインタープリテーションの現場調査

現場調査では、以下2つのキャンププログラムに実際に参加し、スタッフの方へのインタビューや自身の体験をもとに、音楽プログラムが有効だと思われる場面を検討・考察した。

- ・桂川ウェルネスパーク「さとやま暮らしっぼいキャンプ」
- ・ラシルの森「Adventure Camp」

その結果、音楽プログラムはキャンプ等における「導入」部分での「アイスブレイク」や「重要な注意事項の伝達」の役割、また「イベント全体の振り返り」や「体験したことをより印象づける」、「まとめ」での活用が有効であると想定された(表-1)。

表-1 音楽プログラムが有効と思われる場面

有効と思われる場面		期待される音楽の教育的効果
導入・事前指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な注意事項の伝達</li> <li>・アイスブレイクの役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的な開放</li> <li>・記憶に影響</li> <li>・コミュニケーション力の向上</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「振り返り」の促進</li> <li>・歌にすることで体験をより深く心に刻んでもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的要素を学ぶ</li> <li>・記憶への影響</li> <li>・情緒の安定</li> </ul>

(3) 音楽プログラムの開発

結果(1)および(2)を踏まえて、導入とまとめにおいて効果的に活用できることをねらった楽曲を3曲制作した。制作した3曲の歌詞・構成や楽譜については文末に資料としてまとめた(資料1、2参照)。

「危険でステキな生き物たち」

この曲は野外活動における「導入」にて歌い、危険生物への注意や対処を覚えてもらうこと、アイスブレイキングを主な目的とした。仕様として、コール&レスポンスや振り付け、キーフレーズを取り入れ、期待される音楽の教育的効果として「コミュニケーション力の向上」「情緒の安定」「記憶への影響」が挙げられる(以後、楽曲1)。

表-2 危険でステキな生き物たち

楽曲1		危険でステキな生き物たち
場の想定	キャンプや野外活動における「導入」	
目的	危険生物への注意や対処、また、大切な存在であることを覚えてもらう	
仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コール&amp;レスポンス</li> <li>・振り付け</li> <li>・キーフレーズ</li> </ul>	
期待される音楽の教育的効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション力の向上</li> <li>・情緒の安定</li> <li>・記憶への影響</li> </ul>	

「ありがとう〜ぼくらが学んだこと〜」

この曲は野外活動における「まとめ」にて歌い、野外活動中に体験したことをより深く心に刻んでもらうため、また、普段生活を支えてくれている自然や人への感謝の気持ちを促すため制作した。仕様として、野外活動を振り返るような歌詞、感謝の気持ちを促すような歌詞にすることを意識して制作した。期待される音楽の教育的効果として「社会的要素を学ぶ」「情緒の安定」「記憶への影響」が挙げられる(以後、楽曲2)。

表-3 ありがとう〜ぼくらが学んだこと〜

楽曲2		ありがとう 〜ぼくらが学んだこと〜
場の想定	キャンプや野外活動における「まとめ」	
目的	体験から得たものをより一層深く心に刻んでもらう。また、自然や人への感謝を促す。	
仕様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプを振り返るような歌詞</li> <li>・感謝の気持ちを促すような歌詞</li> </ul>	
期待される音楽の教育的効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的要素を学ぶ</li> <li>・情緒の安定</li> <li>・記憶への影響</li> </ul>	

「歌って踊って大根のうた」

この曲は農業体験や食育プログラムにおける「導入」にて歌い、作物を栽培することの大変さ、食の大切さや敬意を学んでもらうため制作した。仕様として、コール&レスポンスと振り付けを取り入れ、期待される音楽の教育的効果として「社会的要素を学ぶ」「情緒の安定」「記憶への影響」が挙げられる(以後、楽曲3)。

表-4 歌って踊って大根のうた

楽曲3	歌って踊って大根のうた
場の想定	農業体験、食育プログラムにおける「導入」
目的	「作物を栽培することの大変さ」「食の大切さ」 「農作物への敬意」を覚えてもらう
仕様	・コール&レスポンス ・振り付け
期待される音楽の 教育的効果	・社会的要素を学ぶ ・情緒の安定 ・記憶への影響

これらの楽曲を活用したプログラムの基本的な流れを考案した。まず、①音楽プログラムのつかみとして、披露する楽曲の内容をフリップ（資料3参照）にしたものを使って説明を行う。次に、②制作した楽曲を、ギターを使った弾き語り形式で参加型の音楽プログラムを行う。また、楽曲によっては音楽プログラム前に、コール&レスポンスや振り付けのレクチャーを行う。③音楽プログラム後、伝えたい内容が本当に伝わったかどうか、その確認を兼ねて内容を参加者に簡単に問いかけて振り返る。以上の手順を、楽曲ごとに想定した場において実施した。

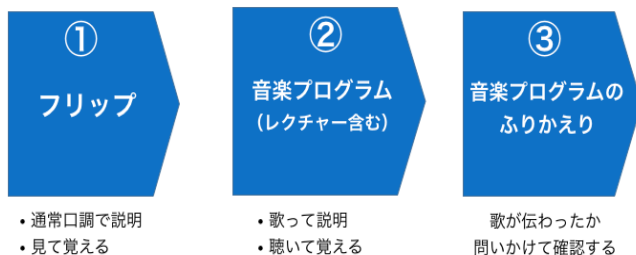


図-2 音楽プログラムの基本的な流れ

#### (4) 施行及び評価

結果(3)にて制作した音楽プログラムを、計3つのイベントにて施行した(表-5)。

これらを施行した後に、参加スタッフや教員の方からプログラムに関してについてフィードバックをいただき、本研究の評価とした。

表-5 プログラム施行イベント一覧

日程	イベント名	場所	対象者	披露した楽曲
2018/8/10~13	和泉多摩川ナチュラリスト クラブ「夏の自然教室」	入笠山	児童8人	楽曲1 楽曲2
2018/11/4	さとやま収穫祭	桂川ウェルネスパーク	136人	楽曲3
2018/11/13	八重山自然観察プログラム 事前授業	上野原小学校	児童約100人	楽曲1

いただいたフィードバックは、類似するものをまとめ簡潔に整理した。その結果以下に示す。

- ・振り付けが効果的だった (8件)
- ・音楽は参加者にプラスの反応を引き出していた (7件)
- ・音楽プログラムは幅広く活用の可能性がある (6件)
- ・その他の意見 (マイナス面含め 13件)

なお、本研究で教材として活用してもらうために制作した成果物「動画」「楽譜」「フリップ」「音源」は、プログラムで活用していただくことを目的に、帝京科学大学インタープリテーション研究室ホームページにアップロードした。

#### 4. まとめ

今回の施行を踏まえ、結果(4)でいただいたフィードバックコメント及び、プログラムを実施した際の自身の考えから、以下のように考察した。

<音楽をインタープリテーションの場に採用した効果>

- ・児童のみならず幅広い年代にも活用できる
- ・プログラムに集中させることができる
- ・重要な内容を印象的に伝えることができる

以上のことから、音楽プログラムはインタープリテーションの場において効果的に活用することが可能であり、有効性が高いと考えられる。伝えたい内容を歌にし、重要な単語をキーフレーズに含め、コール&レスポンス、振り付けなどの「遊び要素」をいれることで、歌が自然に記憶され、歌詞に含めた内容を記憶に定着させることができるのではないかと考えられる。

#### 参考文献

- 1) 日高 まり子：音楽指導における学習のねらいに関する一考察～音や音楽のもつ機能の効果的活用～
- 2) 東京 YMCA -2008 年 7/8 月号参照：  
<tokyo.ymca.or.jp/kikanshi/PDF/2008\_7.pdf>
- 3) 社会法人日本キャンプ協会「キャンプソング」CD

#### 謝辞

本研究を進めるにあたり、現場調査やプログラム施行にご協力して頂いた桂川ウェルネスパークスタッフの皆様、ラシルの森メンバーの皆様、和泉多摩川ナチュラリストクラブの皆様、上野原小学校児童・教員の皆様、ご指導を頂いた指導教員の古瀬浩史教授にこの場を借りて感謝申し上げます。